

被災地からの報告 ～八戸市～

東日本大震災による被災報告と “移動”に関する市民意識の変化について

平成23年7月15日

第6回日本モビリティ・マネジメント会議

八戸グランドホテル

八戸市議会港湾振興・震災対策特別委員会委員長

八戸大学・八戸短期大学総合研究所特別研究員

八戸ふるさと大使

藤川 優里

1.

八戸市のご紹介 「横丁文化」



1.

八戸市のご紹介 「八戸三社大祭」



1.

八戸市のご紹介 「食彩」



八戸せんべい汁

ご当地グルメの祭典！

B-1グランプリ in 厚木(2010年度)

ブロンズグランプリ(第3位)



1.

八戸市のご紹介 「朝市文化」



1.

八戸市のご紹介 「うみねこ繁殖地・燕島」



2. 八戸市の被災状況 ～総合的視点から～

H23.6.10現在

■地震等の概要

震度5強(八戸市内)、津波最大波4.2m
避難所開設69か所、最大避難者9,257人

■被害総額

約911億円

■人的被害

死亡1名(岩手県内での死者4名)
行方不明者1名(岩手県内での行方不明者1名)
重傷10名、軽傷12名

■建物被害

全壊	249棟
大規模半壊	183棟
半壊	615棟

■ライフライン被害

電気 全域停電→3.12翌朝大半復旧→4.6全域復旧
都市ガス 大口需要家12件供給停止→3/14復旧
水道 南郷区一部で取水停止→復旧



2. 八戸市の被災状況 ～総合的視点から～

■ 港湾・漁港関係の被害

船舶被害 漁船 滅失174隻・破損150隻

港湾施設 防波堤・岸壁等の破損、倒壊、沈下など多数
(北防波堤 延長約3,500mのうち、約1,500m倒壊)

立地企業 製紙、非鉄金属・鉄鋼、飼料コンビナート、油槽所等被害多数

外貿航路 コンテナ航路運行休止→7月までに主要航路再開



2. 八戸市の被災状況 ～浜市川地区～

■ 浸水想定区域を越えた浸水で、236棟が浸水

- ・防潮堤整備計画1,396mのうち、未完成の142mから津波が浸入
全壊143棟、大規模半壊23棟、半壊70棟
家屋浸水のほか、いちご栽培ハウス浸水等被害多数



2. 八戸市の被災状況 ～臨海工業地帯～

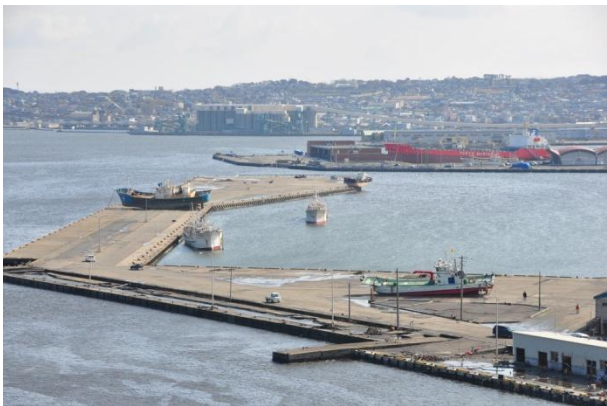
■ 臨海工業地帯の進出企業操業停止

製紙、非鉄金属、鉄鋼、飼料コンビナート、石油コンビナート等被災



2. 八戸市の被災状況 ～館鼻漁港付近～

- 船舶被害多数、住宅地浸水、HACCP施設等漁港施設被害多数
湊・白銀地区 被災家屋447棟
(全壊16棟、大規模半壊146棟、半壊185棟)

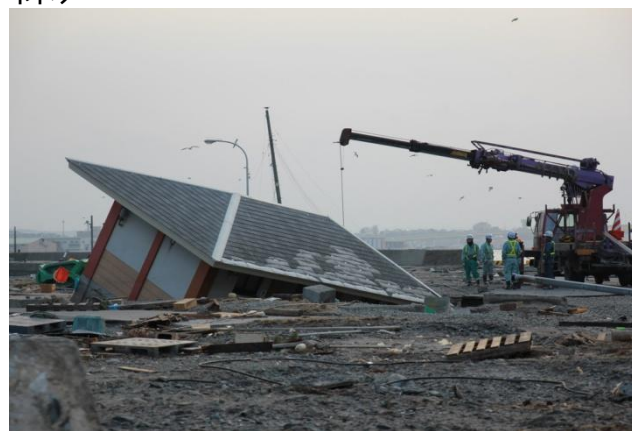


2. 八戸市の被災状況 ～鮫・南浜地区～

■天然記念物・燕島、名勝種差海岸等観光施設被害多数

鮫・南浜地区 被災家屋129棟

(全壊62棟、大規模半壊34棟、半壊33棟)



3. 八戸市の被災状況 ～交通の視点から～

■ 鉄道の被災状況

1) JR東北新幹線(東京～新青森)

H23.3.11 地震発生→運休

H23.4.29 全線 運転再開(暫定ダイヤ) →秋頃通常ダイヤへ
大型連休乗降客、前年比で半減(八戸～新青森)

2) JR八戸線(八戸～久慈)

H23.3.11 地震発生→運休

H23.3.18 八戸～鮫間 運転再開(暫定ダイヤ)

H23.4.24 鮫～階上間 運転再開(暫定ダイヤ)

→階上～種市間8月中頃再開予定、
種市～久慈間は復旧見込みみただず

3) 在来線・青い森鉄道(目時～青森)

H23.3.11 地震発生→運休

H23.3.17 全線運転再開(3/22平常ダイヤ)

橋げた流出八戸線(宿戸～陸中八木)



線路流出八戸線(宿戸～陸中八木)



3. 八戸市の被災状況 ～交通の視点から～

■ 船舶系の被災状況

○フェリー航路(八戸～苫小牧:1日4往復)

H23.3.11 地震発生→運行休止

H23.3.25 青森～苫小牧の代替運行で再開

H23.7.11 八戸～苫小牧で運行再開



3. 八戸市の被災状況 ～交通の視点から～

■バス運行の被災状況

燃料調達の見通しただす変則ダイヤで運行

1) 市営バス

H23.3.11 一部運休(15時～)

H23.3.12～変則ダイヤ運行

H23.4.01 通常運行再開

2) 南部バス

H23.3.11～3.12 一部運休

H23.3.13 全線運休

H23.3.14～変則ダイヤ運行

H23.4.01 通常運行再開

3) 十和田観光電鉄

H23.3.11 一部運休

H23.3.12～3.15 平常運行

H23.3.16～4.3 変則ダイヤ運行
(3.19～3.21運休)

H23.4.04 通常運行再開



補給なく生活に影

ガソリン枯渇…ごみ収集中止、バス減便

行政サービス低下

八戸

ガソリンなどの燃料枯渇が、八戸市民の生活に暗い影を落としている。市は15日の災害対策本部会議で、家庭ごみ収集や消防車、救急車の運行など、生活に不可欠な行政サービスが燃料不足で維持できなくなったことを明らかにし、市民に理解と協力を求めた。



16日から大減便が決まった八戸市営バス。待合室では利用者数人がバスを待っていた。15日午後4時42分、市営バス旭ヶ丘営業所

市環境部は「ごみ収集車の燃料が残り少ないとして、16日以降は燃料が確保できるまで全県庭ごみの収集中止を決めた。同部によると、通常通り収集すれば「確保している燃料は、あと1回収集できる量しかない」といふ。津波などによる被害ごみの収集も中止した。市交通部は16日から当面、朝夕のみのバス運行とし、4路線は終日運休、運行本数は通常の1/8(5本平日)から3/8(3本)に減便している。確保している燃料は3/4日分程度でなくなる。(山地位男 運輸管理課長)といふ。

八戸地域広域市町村団体事務組合消防本部が運用する救急車15台と

消防車4台の燃料は、園城内のガソリンスタンド頼み。

被災地優先で石油供給

エネ庁 六ヶ所所備蓄分は未使用

東日本大震災による石油製品の供給不足で、石油業界に義務付けられている石油製品を3日分引き下げる方針を決めた資源エネルギー庁は15日、本紙取材に対し、新たな確保分は被災地優先で供給することを示した。

同庁は石油製品などと同様に、被災地からの個別要請に応じて、病院、通信施設、地元消防などに燃料を供給中。備蓄量の3日分引き下げて1.2億リットルを放出でき、「被災地向けの供給が円滑になる」と、(同庁石油精製部 菅課)といふ。

本県など被災地では、一般車両へのガソリンが売り切れるスタンドが数出。同庁は災害対応を優先させながら、一般車両への対応も必要としている。一方、民間備蓄のほうは、本県のつ小川原5.5万リットル提供、黒石油商業協組JX日鉱日石、県防災消防課による、県石油商業協組と、県石油商業協組と、JX日鉱日石エネルギー(本社栗原は15日まで)、病院用や下水道浄化場用と、八戸市にA重油計24、

同基地は原油で備蓄して使った場合には時間をかけて精製しなければならぬ。

同課は「必要があれば、5.5万リットルを確保した。A重油は人工透析機器や人工呼吸器を動かすに使用したり、ポンプ設備を稼働するために必要な燃料。県は同日、県石油商業協組に、樹皮や車両に用いる燃料を優先的に供給しても、どうよう依頼した。



確保している量につらくなる。

八戸市民病院の「ドクターカー」2台のうち、1台は岩手県に派遣中。残る1台はガソリンスタンドで給油ができれば出勤不能

飼料供給確保受け 県が稼働情報

東日本大震災の影響で、八戸市の八戸飼料製粉コンビナートから

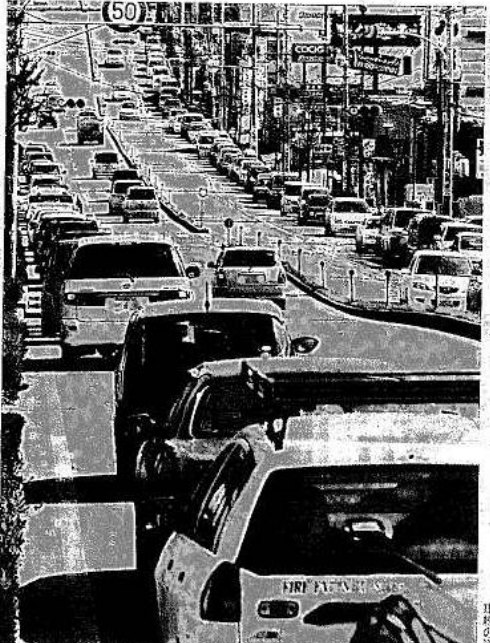
産畜の飼料供給が停止している事態を受け、県政の県民水産部は15日、畜産農家向けに生産指導情報を出した。

乳用牛、肉用牛、養豚、養鶏それぞれに、配合飼料を削減しながら飼養する技術指導する内容を、畜産団体に組合を通じて生産者に通知した。

県農林水産部によると、同コンビナートで飼料原料を貯蔵する東野北クレートミナルから同日夕、通電した

は「国家備蓄の活用を考えると、必要ならならぬ」といっている。

給油の列ぐったり



八戸市内 連休初日、渋滞多発 来店者 数時間待ち スタンド 交通整理も

東日本大震災の影響で、津波の被害を受けた八戸市内のガソリンスタンドは、給油求めて、これまで以上に車が押し寄せ、各所で渋滞が起きた。休日を市を走る市民は、会社休みのように、給油に時間をとらなければならない。各スタンドは、給油に時間をとらなければならない。各スタンドは、給油に時間をとらなければならない。

スタンドが集中する八戸市東部の駅前・ゆりの大通りに沿ったスタンドは、給油を待つ車が、スタンドの入り口で待ち、スタンドの入り口で待ち、スタンドの入り口で待ち。



八戸市東部の駅前・ゆりの大通りに沿ったスタンドは、給油を待つ車が、スタンドの入り口で待ち、スタンドの入り口で待ち、スタンドの入り口で待ち。

最大3時間近く遅れ

八戸市営バス GS車列の渋滞影響



東日本大震災の影響のため、マイカー通勤などで16日、八戸市営バス控えてバスに切り替えがガソリンスタンドの市民も多く、市内の(GS)の給油を待つ混雑と予想外の遅れに車列に巻き込まれ、遅く入りした様子。八戸市が最悪の時間近く遅れた事情を問い合わせられた。GSに向かう車1日で約千件に上った。渋滞の1車線が、ふさがれたことが影響した。ガソリンスタンド、郊外の住宅地から市中心部に向かう路線で、遅れは最大2時間。市営バスは16日、八戸市営バス、普段は自家用車で通勤する人も約1時間遅れとなし、市営バスから遅れ、市民から「なぜ遅外に向かう路線に多く、遅れているのか」といった苦情や進行が遅い。4時と午後7時以降は遅れ、市民から「なぜ遅外に向かう路線に多く、遅れているのか」といった苦情や進行が遅い。

なしにかかったという。市営バスは16日、八戸市営バス、普段は自家用車で通勤する人も約1時間遅れとなし、市営バスから遅れ、市民から「なぜ遅外に向かう路線に多く、遅れているのか」といった苦情や進行が遅い。

七戸町 電気バスに巡回



七戸町が「エコシティバス」に導入する電気バス。八戸市市民病院のバスは、状況が厳しくと懸念を訴えた。八戸市市民病院のバスは、状況が厳しくと懸念を訴えた。八戸市市民病院のバスは、状況が厳しくと懸念を訴えた。

は土曜ダイヤで進行し、午後7時以降は遅れ、午後7時以降は遅れ、午後7時以降は遅れ。八戸市市民病院のバスは、状況が厳しくと懸念を訴えた。八戸市市民病院のバスは、状況が厳しくと懸念を訴えた。

4. 震災による人々の行動・意識の変化①

■ 事業所アンケートの実施

(目的)

- ①震災をきっかけに、**燃料不足によるマイカー利用の抑制等**の社会的制約の経験が、**バス利用意識に変化を及ぼしたか**を把握する(特に、通勤時の利用に着目)
- ②非常時における**公共交通(路線バス)の重要性**を確認

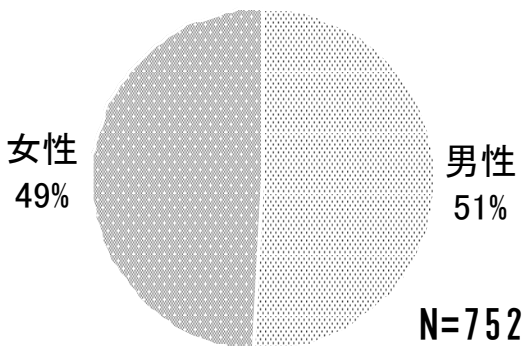
(実施方法)

- ・実施時期:6月27日(月)~7月8日(金)
- ・配布物 :調査票/A3(中折)、両面モノクロ
- ・配布地域:中心市街地の事業者(18事業所)
- ・配布部数:525部+1事業所ではE-mail配信
- ・配布方法:スタッフによる訪問配布+E-mailによる配信
- ・回収方法:スタッフによる訪問回収+E-mailによる回収
- ・回収部数:**753部**(うち、直接配布・回収による回収:**377部**／**回収率71.8%**)

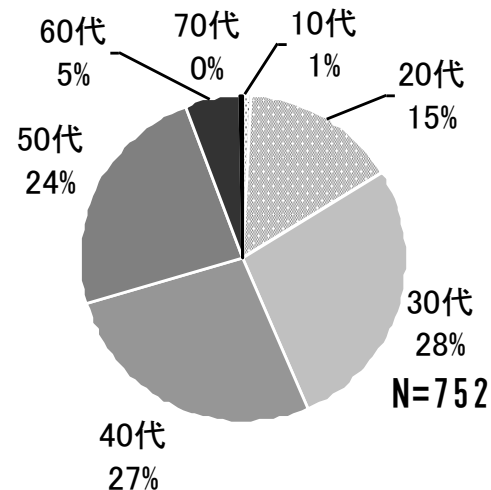
4. 震災による人々の行動・意識の変化②

■ 属性

性別



年齢

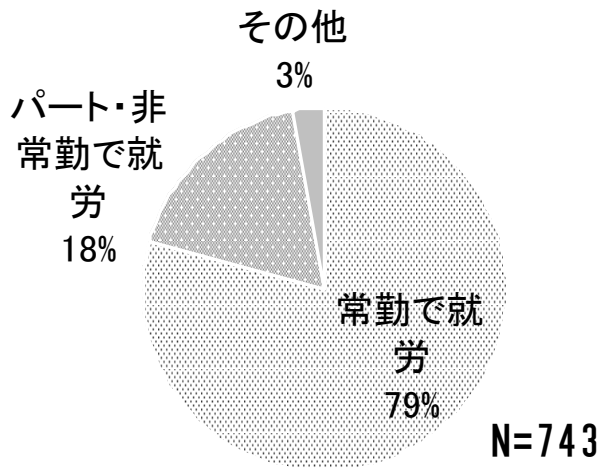


男女比はほぼ1対1、年齢層も様々であり、
代表性のある回答者を得ることができた。

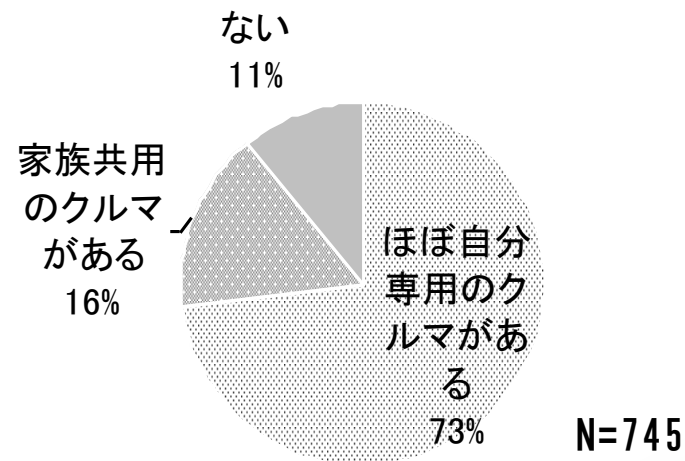
4. 震災による人々の行動・意識の変化③

■ 属性

勤務形態



自動車保有状況

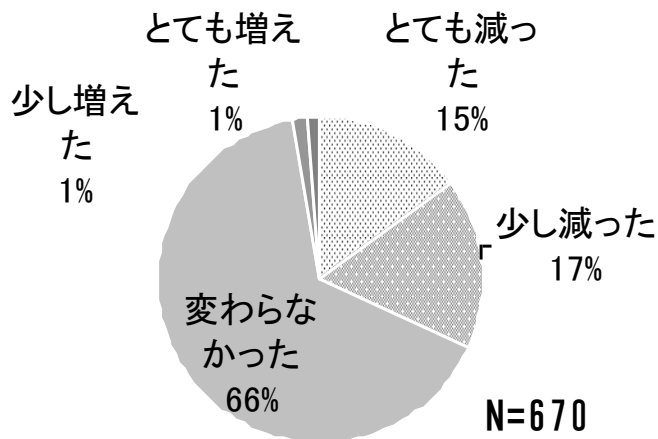


ほとんどの人が「自由に使える自分専用クルマ」を保有していたが、「家族共有のクルマ」を含め、自動車利用に制限のある人が1/4存在した。

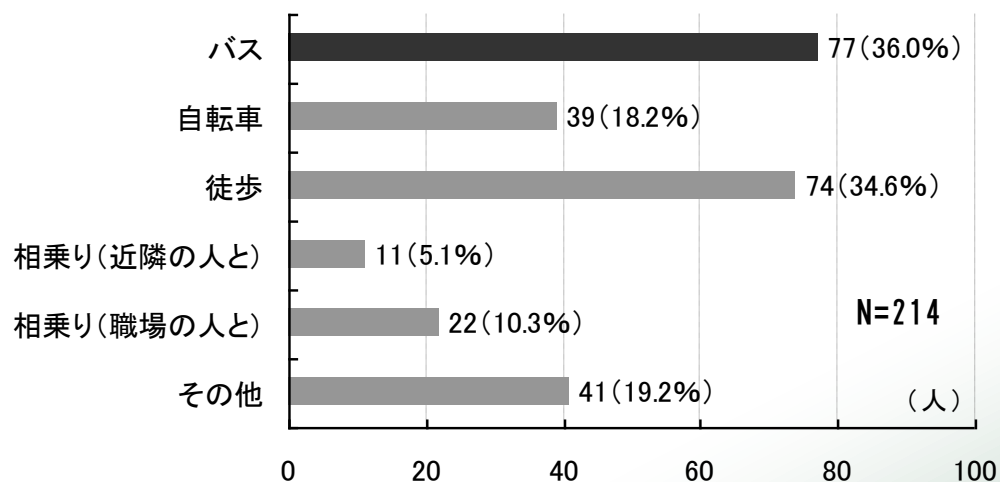
4. 震災による人々の行動・意識の変化④

■ 移動手段の変化①

震災発生から2週間の間マイカー利用頻度の変化



マイカーの代替手段
(複数選択項目)



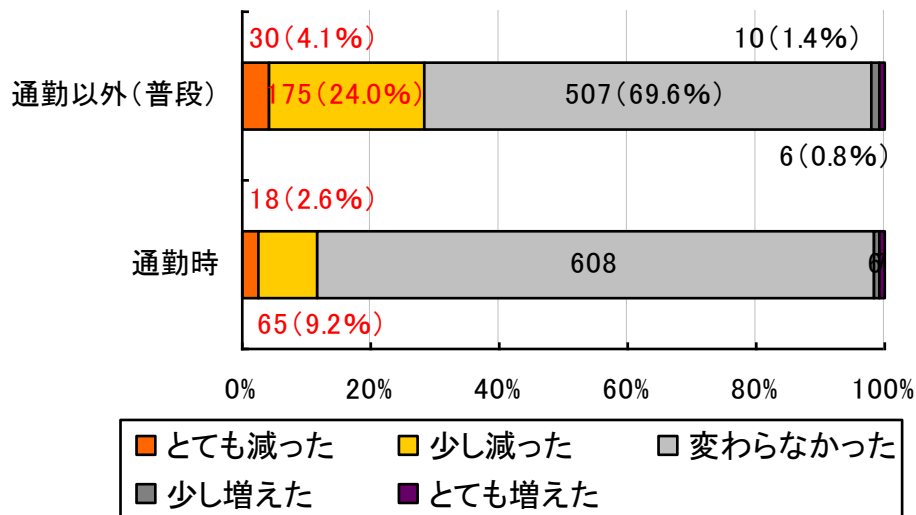
ガソリンの供給に制限があった震災後約2週間の間も、マイカー利用頻度の割合が減ったのは3割程度であった。

マイカー利用が減った人の代替手段として、**バスが3割以上の人に利用**されていた。

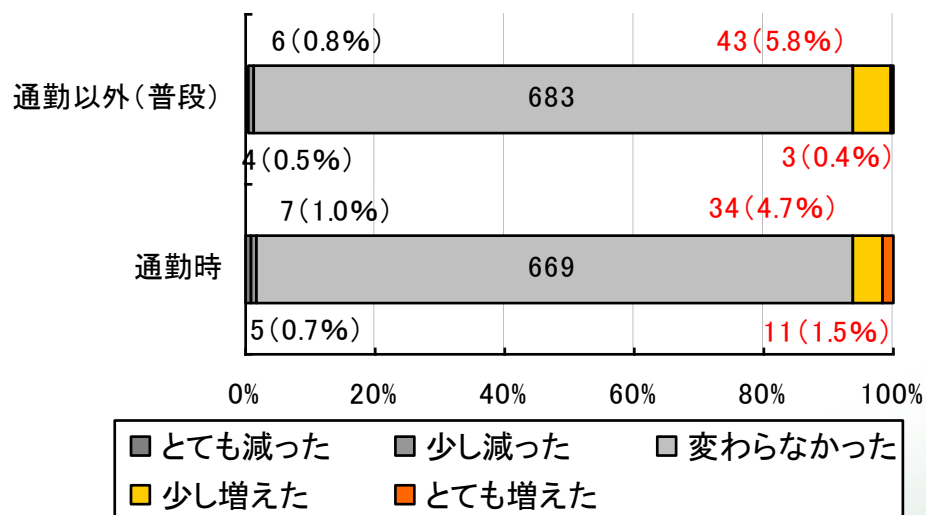
4. 震災による人々の行動・意識の変化⑤

■ 移動手段の変化②

現在の自動車利用の変化



現在のバス利用の変化

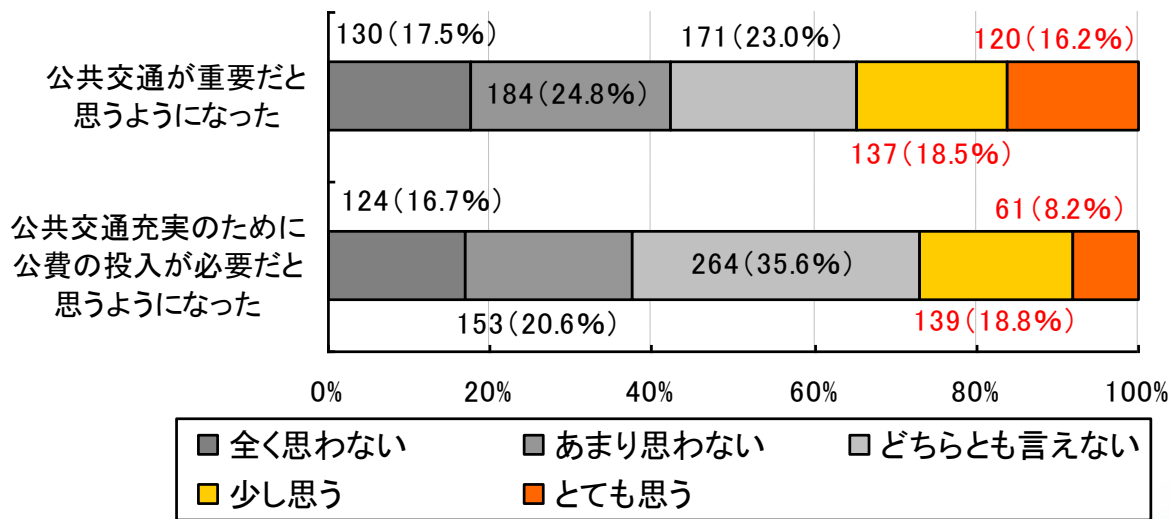


「現在の」自動車利用は、通勤時に1割以上、それ以外では3割近くが「減少」し、「現在の」バス利用は、通勤時、それ以外ともに6%程度増加している。

4. 震災による人々の行動・意識の変化⑥

■まとめ

震災時には、バス利用の一時的な利用が多くみられたが、その後(現在)においてもなお、バス利用が継続されており、特に自動車利用の抑制が続いている。



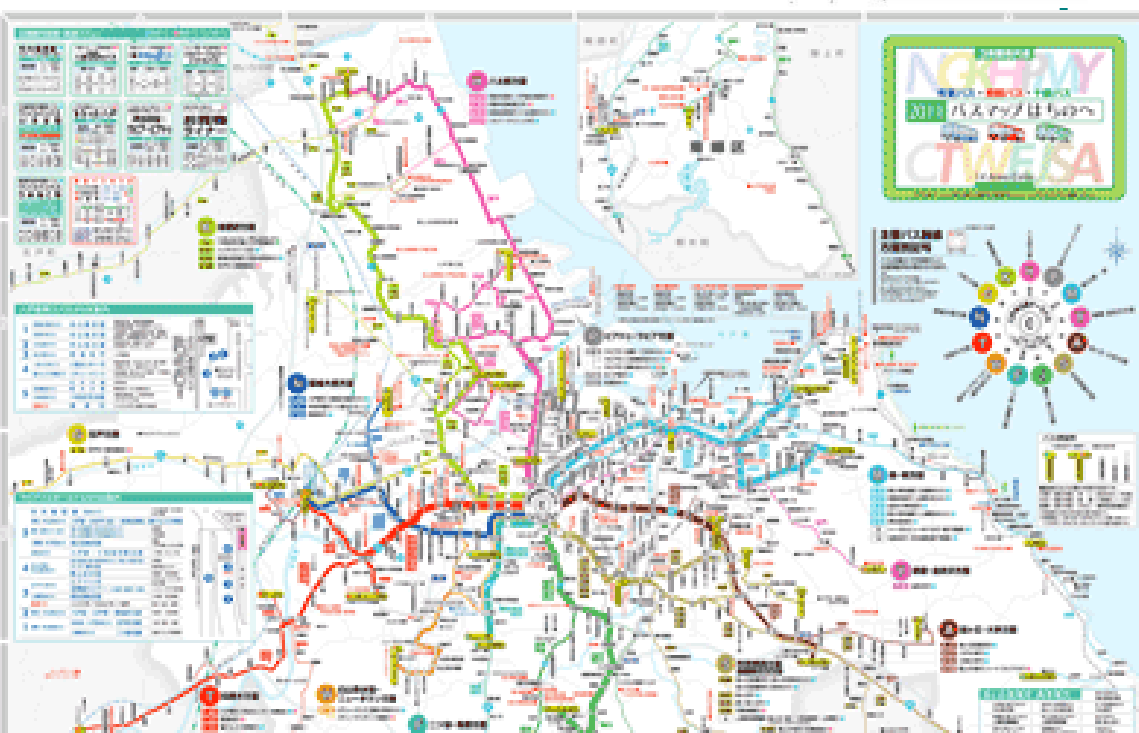
(一方で)
公共交通の重要性認知の向上などについては、「そう思わない」人々よりは少ない・・・
→公共交通の役割・重要性をよりPRしていく必要がある。

5. 公共交通への取り組み①

奇しくも「危機的状況」の経験による行動変容の結果、
 非常時の代々手段としての公共交通重要性が確認された。
 →公共交通の充実・利用促進への取り組みを一層行っ
 ていくべき！




▲ 中心街－八戸駅間の共同運行

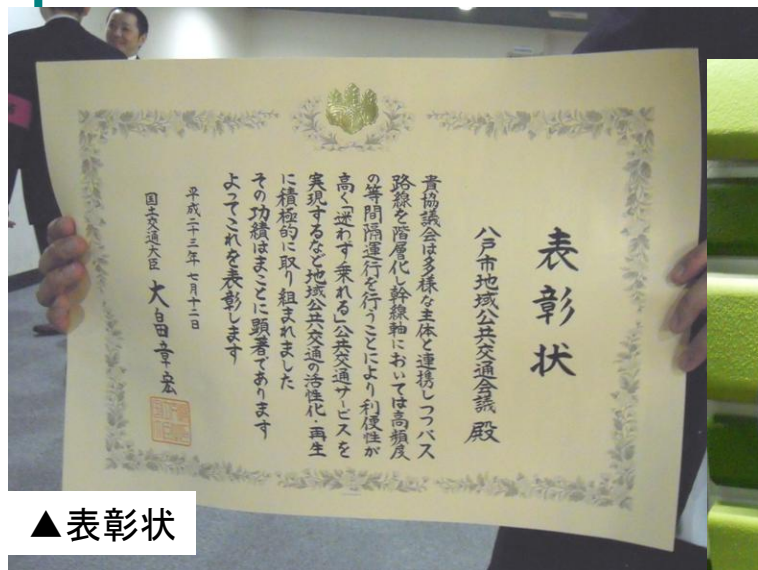


▲ 市内全路線を網羅したバスマップ

5. 公共交通への取り組み②

八戸市地域公共交通会議

『平成23年度地域公共交通活性化・再生優良団体』として国土交通大臣表彰を授与された。



▲表彰式後の一枚

ご清聴いただき、ありがとうございました。